あゆみ速報
原研労組中執ニュース
No.4837(63-04)
2011.9.1（木）

原子力平和利用三原則ー公開・民主・自主ーを守ろう
日本原子力研究開発機構労働組合
〒319-1106　茨城県那珂郡東海村白方白根2-4　Tel. 029 (282) 5413, 5414　Fax. 029 (284) 0568

回覧				

定期中央大会へ向けて、分会討議を進めよう

大会期日：2011 年 9 月 9 日（金）13:30～16:30
開催場所：村松コミュニティセンター（東海村）
2 階 会議室

第 101 回定期中央大会へ向けて、分会討議を進めてください。

東北地方太平洋沖地震、福島第 1 原子力発電所事故で原子力の根幹が揺らいでいるときです。中央執行委員会は、今期の運動の重点を ＜原子力を考える運動＞ に設定し、大会議案で提案しています。労組の運動方針だけでなく、原子力や仕事に関する意見も分会や大会で出してください。

活発な討議が原研労組の基本エネルギーです。難しい時期ですが、明るく元気に進んで行きましょう。

＜ 分会長さんへ ＞

・大会に向けて

①大会議案書を分会員に届けてください

②分会の日程設定、代議員の選出をお願いします。
分会へは執行委員を派遣しますので、日程、場所、連絡先を
組合事務所へ連絡下さい。
分会は 9/8（木）まで実施します。

中央委員会報告

第 447 回中央委員会は、8 月 25 日、原科研内の労組事務所で開催され、定期中央大会の議案の構成、及び第６３期活動の研究問題対策部員 11 名が承認されました。

公　　示

2011 年 8 月 29 日
日本原子力研究開発機構労働組合
中央選挙管理委員会　委員長　篠崎　信一

第１０１回定期大会代議員定数について

連合分会・支部	分　　会	有権者	代議員
連合１	核サ研	8	1
	東海管理・他地区	14	1
連合２	バックエンド	12	1
	環境・線管・研究室	8	1
	放管第１・第２	7	1
工務技術部分会	工務技術	16	2
研究炉部連合分会	炉利用・炉技術	7	1
	JRR-3	9	1
	JRR-4	5	1
連合３	FCA・炉物理	2	1
	核物理	14	1
	化学	10	1
	先端基礎	17	2
	核融合	3	1
	中性子科学	10	1
安全・NUCEF・NSRR 連合	安工・安試・臨界・NUCEF	5	1
	燃安・ホット試験・NSRR	11	1
高崎支部	高崎支部	17	2
大洗支部	原子炉	34	3
	照射	16	2
	管理	20	2
	HT	15	2
那珂支部	JT60 トカマク	9	1
	那珂核融合	4	1
	JT-60 加熱	7	1
合　　計		280	33

日本原子力研究開発機構労働組合規約第 49 条、並びに同選挙規則第 12 条及び第 13 条に基づき、大会代議員定数を下表のとおり決定したので公示します。大会において十分な討議を行うため、別に中央執行委員会より配布された大会議案に基づき、分会の意見を集約し、大会代議員の選出を行うよう要請します。
（大会

第１回研究問題対策部会議（8 月 3 日）報告：（その 2）

副委員長（小松崎）：

福島原発の事故が起き情勢がガラッと変わった。周辺の人も茨城の人も放射能を心配している。それにたいしては、アドバイスなどを真摯に対応する必要がある。真実を言わなければ機構の信用がなくなり、存続にかかわる。どうすれば健康が守れるか、きちっと対応できる組織になれると思うし、ならなければならない。チェルノブイリでは、半径 300km といわれた。神奈川県でもお茶葉にでた、毎日のように飲む健康にもよいものが飲めなくなるのは大変なこと。国民の立場で正直に対応できる組織になりたい。

Ｃさん：

いろいろあり、考えは移ろうが、NEAT で、対応したり、昨日(8 月 2 日)の東海村のシンポジウムも聞いた。当事者には身の上のこと、避難して別の仕事をしろといわれても簡単に転換できない。牛を飼うとか決めて仕事はこれで行こうとした人生がかかっている。シンポジウムでは、リスクの話で、絶対的リスクと相対的リスクとか数値化する話に対して、東海村村長が「人が何人死ぬとか数値化することに違和感がある。ふるさとを失うリスクはどう考えるのか」と言っていた。

東海第２原発で事が起こったら、30Km 圏内に 94 万人、これをどうするという議論がなくて、自分がその身になったらという考えを忘れている。原発を作るのは政治だが、そもそもなぜ原発を置くのかというところは、原発に理解があると思われる東海村の人たちでも疑問を感じていると思われるニュアンスの発言があった。安全を担保してくださいよということだろう。

福島原発、大丈夫大丈夫と言っていて、何だこのていたらくと私でも思う。安全を担保して初めて成り立つものと感じた。逆に見れば、安全を担保できないおそれがあるなら、これ以上はできませんと、限界をちゃんと云っていれば少し違ったのでは。　またこの次、大きな地震が来たら、こういう経験があった後なので、それに耐えるものでなければならない。

危険の指摘をしたら、より強固な安全につなげるものとして、「よく指摘してくれたありがとう」と云うような仕掛けができないかなと思う。がしかし、　実際は「余計なことを言うな」といわれる現実。それでは、原発のような危険なものを設置する、専門家としての技能がない集団だと思う。この辺を踏まえていない集団だと危なっかしくて仕方がない。危険・安全を科学として率直にちゃんとはかる必要がある。

日本は資源が少ないから国策として原発というのは理解するが、それにはリスクがあるということを考えたのだということが必要。「必要なんだから作っちゃえ」ではいけない。
労組として何を云うか、そもそも論までふみこむ。
2011 年の日本では手に余ると考えたとき、ちゃんと評価できるのか、あるいはもう少し何とかすれば、何とかなるとか評価しているのか。

書記長：

「評価している」といっていた。そして「起こりえない」と言っていたことが、起きてしまった事で、評価のシステムそのものが根底から疑われているというのが今の状況。

Ｃさん：

今回、地震、津波にあってこういうことになったが、また今度きたら、それがほかの地区でも、それに耐えなければならない。

委員長：

いろいろなものが信用されなくなった。研究機関としてやってきたことも不十分だった。電力会社もろくでもないことをしてきた。「何も信用できないならこんなものはいらない」というのはごく自然。信頼、信用を前提としなければ話はできない。だがそう簡単にできない、しかしそこからでないと。

書記長：

率直であり、それが信頼されなければ、進められない。

Ｃさん：

そこを取り繕おうとしたらだめ。

Ｄさん：

NEAT の相談窓口、「健康に問題がないよ」との資料ばかり用意されていた。相談内容では自分が危険だと思えばそう言った。率直であることが本当に大切だと思う。これからも気をつけたい。

想定外と言われるが、ワーストケースデザインという考えがあって、いろいろ条件が重なった最悪のことを考える設計手法だが、そのようにできる限るのことをやった上で、国民がどう判断するかで原子力の今後が決まると思う。

Ｅさん：

電気料金体系、電力会社が儲かる仕組みになっている。潤沢な資金で、学者などをひきつけられるものがあるから安全神話などが作られる下地がある。電力会社を国有化するなど、必要以上には儲からないシステムにする必要がある。金融で護送船団方式というものがあるが、原子力もそんな風になっているのではと思う。職を失うか、との話があったが、たとえば核兵器工場、平和ならいらない。雇用優先でなく考えることが必要。原発をやめていくとしたとき、どのような形でやめていくか解からないからイメージがわかないが、そういう選択肢も出てくると思う。

東海村で行われたシンポジウム、専門家が住民にちゃんと応えていないという感じがあった。たとえば「地震や津波、専門家が指摘していたじゃないか。いっていることを聞かないリスクはどう評価するのか」などの声があった。　事故は今の技術水準をあらわしているのであって、技術を改めて評価しなければならない。今の人間には扱えないように思う。

書記長：

実証済みの裏返しですね、事故が起きて現状の技術水準では危険だということが実証された。

Ｅさん：

われわれの旧サイクル機構の工場でも、事故はそのときの技術レベルをあらわしていたのだけれど、技術レベルが露呈するのを嫌がって事故隠しが行われてきた側面がある。レベルが低いと思

われるのは嫌なことなのだが、みんなで認識しながら進むしかない。しかし、現場ではそうならなかった。原発事故が起きたことも素直に見るしかないと思う。脱原発=脱原子力ではないと思うのだけれど、その辺がよくわからない。軽水炉が発電方式として否定されているのではと思うところがあるので、その辺を整理して考えたほうがよいのではと考える。軽水炉は扱いきれないと云う意味で、われわれの職場で脱原発を言ってもよいのではと思う。組合として何が言えるかという点では、今後どうするかは難しいところがあるが、結果論としてこれがまずかったということは何点か指摘することができ、組合としてまとめられると思う。

Gさん:

私は個人的には原発反対なので、今みんなが脱原発といっていることは喜ばしいと思っている。今、「脱原発と言っているのが全原発の否定ではないのではないか」とおっしゃっていましたがそんなのは甘いです。脱原発と言っているのは軽水炉だけと言っているのではない。それをどうクリアしていくかというのが今後の課題。軽水炉だけだめよという脱原発で労組の考えをまとめるというのは無理だと思う。私は原子力に関係がない世界から、この世界に入ったのだが、原子力の平和利用という言葉に違和感があって、なんだろうと考えると、反対側に核兵器があるから平和利用なんだと気づいた。核兵器がなければ、平和利用という言葉は不要で、単に利用という言葉ですんだはず。平和利用ということは、原爆になるよという話があるのであって、何で原爆がだめで、原子力がいいんだというのは理解に苦しむところなのだが、縁があってこの世界に入ったので、自分のやるべきことをやってきた。いったん国策としてはじめてしまった以上、こんな失敗は本来あってはならない。スリーマイルの時だって、チェルノブイリの時だって、「日本ではあんな事故絶対に起きない」と言っておきながら、チェルノブイリに匹敵する事故が起きている。この事実をどう考えるかという話。今まで言ってきたことがみんなうそではないかといわれても否定できない。だからといって今この時点で、委員長が外部の講演会で参加者から言われたように、「あんた達がしっかりしていればこんな事故起こらなかったのじゃないの」と言われても、困る。

委員長:

全面的にではないが、一部の責任はある。

Gさん:

我々は、プラントにかかわっていたわけでもないし、そういう立場にあったわけでもないので、理不尽なことを言われるのは耐えられない話。

委員長:

一般の人には期待感があったのでしょうね。

Gさん:

一般の人が期待するのはいいのだけれども、それを個人に向けていってもらいたくはない。組織に向けて言うのはいいのだけれど。

委員長:

「あなたが」ではなく「あんた達が。」と言われたので、そういう意味では、個人に向かって強く言ったのではないでしょう。労組としては、組織に対して、いろいろ言ってきた。声が小さくて役には立たなかったということはあるが、我々なりに努力はしてきた。その点はそれなりに主張していくべきと思う。誰かさんみたいに「もっと力を入れるべきだった」と反省する必要はないと思う。「その結果がこの事故でどうしてくれるの」と言われれば、それはそれで問題なのだが、この事態に至っても我々の活動が全否定されるものではないと思っている。

Gさん:

労組として何を情報発信していくかというのは、非常に重要なことで、よく考えて、冒頭にあったように、議論してすべて、オープンにしていくというのはいいのだけれども、多岐にわたりすぎるので、それをばらばら出していってもしょうがないような気もする。

書記長:

対立する考えを並べるにしても、論点が整理され、それぞれにある程度体系が見えるようにまとめ、こちらの考えの体系、あちらの考えの体系のようにして出したいと思っている。だからある程度揉んでいって煮詰める必要があると思う。

Gさん:

社会として考えるべきこと、原子力機構として考えるべきこと、この2つが背景にあって、組合として何を言っていくかだと思う。その考えをどんどん出し合って、すぐに出すべき。この集まりを持つのが遅すぎた。もっと早くやってしかるべきだったと思う。「何で労組は何も云わないのだろう?」と思っていた。現場が忙しいのだろうとは思っていたが、それでもやはり、現場をおいてもやるべきだったと思っている。

Hさん:

特に考えてこなかったのだが、いままでの話を聞いて、まず、脱原発というのは、反原発に対した言葉ではないかと思う。最近できた言葉。反原発というのは、今日にでも原発を止めにして今後一切も止めろというようなニュアンス、脱原発というのは、とりあえず今動いているのはいいけれども、それが終わるころには終わりだ、というような違いでは。 以前は、反原発の人と原発推進の人たちの議論で、そこではまったくかみ合わないというところがあった。反原発の人は、危険がちょっとでもあれば、「そんな危険なものは絶対動かしてはいけない」と言い、原発推進の人は「そういう危険は限りなく小さいのだから、エネルギーのことなどを考えたらこれはやらざるを得ないのだ」と言う。そこは絶対にかみ合わない議論。議論しても溝は埋まらない。

「危険だ」と指摘すると「何でそんなことを言うのか」と非難されることがあるが、それは少しでも危険だというと、「止めろ」という反原発の考えが一方にあって、研究して危険が見つかったら改良していくというのは、反原発の考えと相容れないからではないか。危険があるとなると、反原発の人に「だから駄目」と言われることを恐れる。それに対抗するために、推進側は100%かのように「安全です」という。だから新たに危険が見つかるのは駄目だということになる。そういう対立があるから、率直でない体質、社会が作られてきたということがあると思っている。「危険がゼロでないから止めろ」というの

はある意味で正しい。だけど、ゼロでなくとも、社会のリスクとして受け止めることを考え、「リスクとメリットを勘案して動かしましょう」と言う選択肢もある。どう思うか社会の選択だと思う。

僕としては、100 年、200 年先を考えたら、原子力であるかどうかは別にしても、化石燃料に依存しきれるとは思わない。その意味で原子力には賛成です。だけど今そんな理屈を言っても納得されないと思う。

原研労組として、議論して何かまとまることがあるとは思えない。有益な提言をできるとも思えない。今役に立つこと、事故の対処として役に立つようなことや、今動いている原発の安全に必要なことを言っていきたい。原子力機構をみると、もっとやれることがあるのにと思う。組合からもっとこれをしろと言ってもよい。

雇用の問題、考えたこともなかったが、今それを考えちゃいけない。社会の役に立っていないと思うなら要らない。役にたっていないと思われたくないからではなく、専門知識を持っている人間としてはもっと貢献すべきと思う。

J さん:

福島に除染に行ってきたのだけれだのけれど、かなり成果があったと思っている。「もんじゅ」に 1 日 5000 万円かけているくらいなら、除染にお金をかけたほうがよいのではと思う。安全研究センターでは、炉心損傷にいたる確率を出すために、確率論的安全評価(PSA)というのがやられていて、その中で、炉心損傷の一番の要因がこの全交流電源喪失だったのだけれど、それがわかって、リスクグループの人が、当時の原子力安全委員長に対策を採るように言ったのだけれども、十分な対応がなされなかった。言うことを聞かないような人だから安全委員長になれたのかもしれないが、研究しても上に立つ人が汲み取らないのでは、研究が役に立たない。

私自身、事故が起きるまでは、「制御棒を入れたら原子炉は止まる」と教えられてきたので……研究炉の僕の同期の人もそう思っていたみたいです。

書記長:

それは工学屋の発想ではないです。素人の僕だってそう思っていない。臨界が止まるということと炉が止まるというのは全然別でしょう。

H さん:

いやいや、そういう 認識があるというのはある程度事実で、緊急冷却装置が作動すればもう安心と皆さん思っていたのではないでしょうか。

***** 一部略 *****

書記長:

それはそうだったみたい。茨城県でほうれん草の汚染が暫定基準を上回ったときがあったでしょう。その時ある県会議員から、「汚染が出て、初めて県の役人が慌てた」と聞いた。それを聞いて私は、びっくりした。その前に全交流電源喪失があったのに、そこで怖がらないでいる。一般市民はともかく原子力規制の関係者は、どんな弱点があるかをもっとわかっていなければいけない。

E さん:

全電源喪失、朝日新聞に出ていたが、1970 年代に外務省が委託して、テロ対策関連で全交流電源喪失を研究したのだけれども、そこでの事故の進展は今回の事故と一緒だと書いていた。反原発が恐ろしくて公表できなかったというようなことが書いてあった。

***** 一部略 *****

書記長:

一通り話を聞いて少し整理したいのは、反原発・脱原発の話、それは無視できないけれど、そのスローガンそのものは議論しないほうがよいと思う。具体的にどうするか、つまり軽水炉は駄目と言うか、将来も含め原子力は駄目と言うかは議論しても、それを単純に反原発や脱原発が良い悪いとか言わないほうが良い。私が思うには、一般の人から見たら、原発といえば軽水炉、BWR と PWR しかない(他はもんじゅ位か)と、今そばで動いているものしか考えていないのがほとんどの人。昔からの人は別にして、そのほとんどの人が、いま脱原発や反原発になったからといって、それをどうこう言っても始まらない。ただ我々が原子力を将来のエネルギー源として考えるなら、それはそのこととして言って行きたい。実は私は、ある場所で「今の軽水炉は駄目だが、原子力を将来のエネルギー源として考えろ」と言っている。なぜそう言っているかというと、原子力開発の初期に軽水炉がなまじうまく行き過ぎて、ほかの可能性の芽がつまれた。原子力潜水艦ができ、PWR,BWR ができ、発電ができて、そこそこ安全に運転できた。そこで急にたくさん作り、大型化もしてきた。核エネルギーを取り出すにはどうしたらよいかについて、安全性や廃棄物の問題も含め、本当の意味で突き詰めて考えていないと思う。行けいけで今に至った。突き詰めて考えても良い解がないのかもしれないが、現段階では、その可能性を十分探ったとは思っていない。

一方、エネルギー源としては、当面原子力は要らないと思っている。なぜなら、原子力が電力の 3 分の1というが、総エネルギーで見ればわずかなもの。その分が絶対なければならないのかといえば、そんなことはない。火力発電を増やすなり、いろいろかき集めるなりすればよい。しかし今の状況がいつまでも続くとは思っていない。CO_2 増加とは関係なく大きな気候変動は必ず来るし、そのとき莫大なエネルギーが必要になるかもしれないと考えている。だから、きちっとした技術で、開発できるものは進めて行きたいと思ってる。本気で。ただ今回のことをきっちり反省しておかなければならないと思う。

******* 以下略 *******